



佐賀大学病院ニュース

— 患者さん・地域の皆さんとの絆を深める広報誌 —

SAGA UNIVERSITY HOSPITAL NEWS

ご自由にお持ちください

No.57 2025.12



医療者の学びを支援する拠点

医療研修センター

センターの概要

活動内容(臨床研修医教育)

研修医からの一言

SAGAジュニアドクターエクスペリエンス2025報告



病院ホームページ
<https://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>
〒849-8501 佐賀市鍋島5丁目1番1号 TEL:0952-31-6511(代)



■ 診療科紹介(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

■ カチ★スタ

[第5回] 臨床検査技師

■ 看護部だより(がん看護外来の紹介)

■ 連携病院紹介

■ TOPICS

- ふれあい看護体験
- 令和7年度佐賀大学医学部附属病院 連携病院長会議
- こどもセンター ハロウィンイベント
- 特定行為研修修了式

■ ノベルティグッズプレゼント!

■ Wi-Fiを設置しました!

■ 学生広報スタッフによるコラム

MEDICAL TRAINING CENTER



磯田 広史

柿木 優佳

古賀 大介

吉田 和代

副センター長

江崎 幹宏

医療研修センター長

多胡 雅毅

副センター長

山崎 有菜

堀田 千恵子

平田 寛人

2025年4月、臨床研修と専門研修の充実のため、卒後臨床研修センターと 医療教育研修センターが統合し、医療研修センターが設置されました。

センターの概要

新たに開設された医療研修センターは、臨床研修・専門研修・メディカルスタッフ研修の3部門からなり、9名の医師と3名の事務職員が担当しています。医師の育成プログラム(臨床研修・専門研修)の整備や、多職種スタッフの研修の充実などを役割とする、いわば医療者の学びを支援する拠点です。当院における医療スタッフへの教育をこれまで以上に充実させ、医療の質の向上へ貢献してまいります。

活動内容(臨床研修医教育)

今年度は、まず医師免許を取得したばかりの臨床研修医への教育を中心に活動しています。たとえば、外来や病棟で必要となる基本的な知識や技術の教育、採血などの手技に関する模型を使った練習会の開催、研修医の知識・技能の修得状況の確認、より良い研修プログラムの検討・改善などです。院内のすべての診療科の医師と協力・連携し、経験豊富な指導医による丁寧で熱意ある指導のもと、研修医一人ひとりが確実に実践力を身につけられるよう支援しています。研修医がしっかりと成長できる環境を整え、将来の佐賀の医療を担う良い医師を育成することによって、患者さんに安全で質の高い医療をお届けできるよう、日々取り組んでいます。

研修医からの一言



医療研修センターは、研修医同士が各診療科での学びを共有し、共に成長していく場です!

様々なシミュレーターで研鑽し仕事後には談笑する。研修医の交友の場、それが医療研修センターです。



研修医の一人一人を大事にしてくれると感じます。先生方と距離が近く、相談しやすいのも魅力です!

せわしない臨床研修の中で、一息つける止まり木のような場所。研修での相談もしやすい環境です。

SAGAジュニアドクター体験2025



2025年11月2日(日)に、SAGAジュニアドクター体験2025を開催しました。中学生に様々な医療技術を体験してもらいうべで、当日は中学生31名に参加いただき、皆さんとても楽しんでいただけたようでした。



ロボット手術・結紮
最新のロボット手術シミュレーターを操作



スポーツドクター
応急処置として足関節のテープングにチャレンジ



画像検査
CTやMRIの画像から疾患を見つけるクイズに挑戦

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

Otorhinolaryngology/Head and Neck Surgery



機能温存を目指した最適な治療を

私たちは、大学病院の他に、佐賀県医療センター好生館、織田病院、高木病院、もろどみ中央病院の4施設に関連病院を有しており、それぞれに医局員を派遣しています。

当院は、佐賀県内の頭頸部がん診療をほぼ一手に担っているだけでなく、先天性聴覚スクリーニングの精密検査施設や、鼻副鼻腔領域における学会認定の手術研修施設としても、重要な役割を果たしています。「病気やがんが治ればいい」というだけでなく、いかに機能を保ちながら患者さんにとって低侵襲かつ最適な治療をするか、ということを考えて診療に臨んでいます。

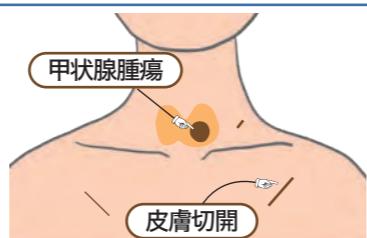


教授 杉山 康一郎



頭頸部がんに対する光免疫療法を行っています

光免疫療法は、がん細胞に特異的に結合する薬剤と光を使ってがんを破壊する新しい治療法であり、当院では2024年11月より導入しています。従来の治療では難しい頭頸部がんの一部に適応となり、これまで諦められていたような患者さんにも適応が広がりました。当科には頭頸部癌専門医が3名在籍しており、手術、化学療法・放射線療法などとあわせて、患者さんの状態や背景に応じた様々な治療を提案し、一緒に考えるようにしています。



甲状腺内視鏡手術を導入予定

現在、甲状腺良性腫瘍に対する内視鏡手術の導入準備を進めています。首に5cm程度の傷が残っていた従来と比較して、本手術では、首にほとんど傷が残らない手術が可能となります。手術の安全性や確実性は、外切開とほぼ同程度とされています。実現すれば、九州圏内の大学病院の耳鼻咽喉科・頭頸部外科では初の導入施設となります。

当院で輝くスタッフを紹介!



力士★スター

第5回は、
臨床検査技師の
紹介です



石隈 麻耶

石隈 麻耶
いしづま まや
副臨床検査技師長

於保 恵

於保 恵
おほ めぐみ
臨床検査技師長

梅木 俊晴

梅木 俊晴
うめき としはる
副臨床検査技師長

1. 仕事内容を教えてください

血液や尿などの検体を用い、自動分析装置による酵素・ホルモン・腫瘍マーカーなどの測定を行っています。また、生化学・免疫・血液・一般・輸血の3検査室の統括として、患者サービスの向上や経営面への貢献、スタッフがより働きやすい環境づくりにも取り組んでいるところです。

臨床検査技師長として検査部の管理業務を行っています。私の専門である微生物検査は患者さんの体から採取した検体(尿・痰・血液・膿・便など)を検査し、感染症の原因となる微生物を特定することで適切な治療へつなげます。

生理機能検査室で、心電図、呼吸機能、心血管エコーなどの検査を担当しています。これらは、心臓や肺などの機能を「目で見る」「数値で知る」検査であり、診断や治療方針の決定に欠かせない重要な役割を担っています。また、副技師長として病理・微生物・生理機能の3部門を統括し、教育や業務改善にも取り組んでいます。

2. 臨床検査技師を目指したきっかけは何でしょうか

幼児期に大けがを負い、中学まで通院や入院を繰り返す中で、検査を受ける機会が多くありました。進路を考える際に、「臨床検査技師」という職業を知り、調べるうちに自身の経験と重なって強く興味を持つようになりました。検査結果を通じて診断や治療に貢献し、医療現場を支える重要な役割に魅力を感じ、この道を選びました。

小学校高学年の頃から「人の役に立つ仕事がしたい」という気持ちが芽生え、その中でも医療の仕事に興味を持つようになり、高校生の頃には臨床検査技師を志すようになりました。

実は、母の勧めでこの道に進みました。最初は深く考えずに選んだ職業でしたが、実際に現場で働くうちに、検査結果が医師の診断や患者さんの治療に直結することを実感し、「これは自分の天職だ」と感じるようにになりました。

3. 仕事のやりがい、思いなどを教えてください

表面では見えない体の中の情報を数値や画像、記録として可視化し、医療判断に必要な情報を提供できることに魅力を感じています。今後は、より正確で信頼性の高い検査を行うために、精度管理を熟知し、日々の業務を通じて技術や知識の向上に努めていきます。

自分が行った検査結果をもとに治療方針の決定につながり、迅速な治療によって患者さんの命が救われた時、治療の第一歩である検査の重要性を強く実感します。現在は臨床検査技師長として、スタッフがやりがいを感じながら快適に働ける職場づくりを心がけています。

検査を受けた患者さんから「検査、楽しかった。ありがとう」と声をかけていただき、その言葉に心が温かくなりました。「どうすれば少しでも快適に検査を受けてもらえるか」を考えることにやりがいを感じ、検査技師としてだけでなく、人として向き合うことを大切にしています。



ウサギの「マロン」です。近寄るとピョンピョン跳ね回って喜んで(?)くれます。



朝の日課:
チワワの「らんちゃん」と散歩し、牛乳でシェイクしたブロテインで1日をスタートします。



看護部だより ~がん看護外来の紹介~

がんと向き合うあなたを専門の看護で支えます



緩和ケア認定看護師 乳がん看護認定看護師 がん看護専門看護師

平瀬 真代

白濱 泉

前田 美和



患者さん、ご家族の苦痛や不安による辛さを緩和し、その人らしく歩んでいけるよう支援していきます。

乳腺外来やがん看護外来で病気に関わる問題を一緒に考えサポートさせていただきます。

がん療養中であっても患者さんらしく過ごせるよう支援します。話すことで少しでも気持ちが軽くなればと願っています。

1 がん看護外来とは

専門資格をもった看護師が、がん患者さんが抱える身体やこころの苦痛に関する相談を受け、支援する外来です。“がん”に罹患しても、これまで大切にしてこられたことを患者さん自身が継続できるように、情報提供を行ったり、一緒に考えたりして支援を行います。

2 がん看護スペシャリスト（認定、専門看護師）の役割

認定看護師は専門分野に精通し、実践を主体とし患者さん・ご家族の気がかりへ対応をする役割があります。また専門看護師も同様の対応に加え、スタッフへの教育やより良い看護が実践できるように研究を行う役割があります。

3 スペシャリストへの道

看護師5年以上、専門分野3年以上の経験がある場合に、認定看護師であれば1年（特定行為研修も含め）の認定看護師教育課程を修了、専門看護師は2年の修士課程を修了し、どちらとも認定試験に合格をすれば資格を取得できます。

みね内科循環器科クリニック



理事長 三根 大悟

お問い合わせ 0952-37-3986

みね内科循環器科クリニック

〒849-0916 佐賀市高木瀬町大字東高木231-12



みね内科循環器科クリニック
理事長 三根 大悟

当院は2018年5月に佐賀北警察署の南に新規開業して以来、循環器疾患とそのリスクとなる生活習慣病に対して特に力を入れて診療をしています。

当クリニックの特長ですが、常時心エコー検査などができるよう検査技師2名体制を設けています。また、週1回火曜日午後にペースメーカー外来を実施しています。そして、開院当初から外来心臓リハビリを行っています。佐賀大学病院で心臓手術を受けられた方、心不全治療を受

け退院された方なども多く心臓リハビリに取り組まれています。現在は月曜日から金曜日まで週5日間で実施しています。そのほか、当院かかりつけの糖尿病患者さん限定ではありますが眼科専門医による眼底検査も行っています。また、睡眠時無呼吸外来を設けており検査の実施はもちろんですが、現在150名を超える患者さんのCPAP管理を行っています。今後ともスタッフ一丸となり地域医療に貢献できるように努力していきたいと思います。

MINE Cardiology Clinic

TOPICS

8/4 ふれあい看護体験



看護職に興味をもつ佐賀県内の高校生を対象に、佐賀県看護協会の主催で「ふれあい看護体験」が開催されました。当日は血圧測定、触診、車椅子移動などの看護体験、看護師との交流会、院内の見学もあり、参加した38名の高校生が看護職について理解を深め、活発な意見交換が行われました。

9/26 令和7年度佐賀大学医学部附属病院 連携病院長会議



当会議は「本院と連携する地域の医療機関が医学・医療の充実と発展を図り、地域医療の向上に寄与すること」を目的として、毎年開催しています。今年度はホテルマリターレ創世佐賀で開催し、来賓79名、院内関係者41名が出席しました。会議では、新任教授の挨拶、メディカルサポートセンターの活動状況報告のほか、「心臓血管外科における低侵襲治療の展望」「脳腫瘍手術における術中MRIの導入」「佐賀大学新カリキュラムと関連病院・地域医療実習拡充のねらい」「メディカル広報室の活動について」と題したプレゼンテーションを行いました。会議後は懇親会を開催し、盛会のうちに終了しました。

10/1 特定行為研修修了式



佐賀大学医学部附属病院にて特定行為研修修了式を開催しました。当院は「特定行為研修指定医療機関」として認定されており、本年度は第5期生として「術中麻酔管理領域」4名、「糖尿病関連」2名の、計6名が修了しました。特定行為研修を終えた修了生は、さまざまな現場でチーム医療の即戦力として活躍しています。また、新たに第6期生として「術中麻酔管理領域」2名が研修を開始しました。研修生はこれから1年間、当院で特定行為の実践に必要な知識と技術を学んでいきます。

10/23 こどもセンター ハロウィンイベント

入院中の子どもたちを対象に、こどもセンターでハロウィンイベントを開催しました。こどもセンターのスタッフによる企画で、プレイルームに集まって開催しました。会場には仮装グッズも準備され、思い思いの衣装に身を包んだ子供たちがフォトスポットで撮影したり、クイズなどを楽しみました。また、おやつの時間には、栄養治療部による手作りおやつがふるまわれ、楽しい1日となりました。



INFORMATION

10名様に
当たる！

読者プレゼント企画

ノベルティグッズプレゼント！

読者アンケートに回答いただいた方の中から、抽選で10名様に当院ノベルティグッズをプレゼント！

このノベルティグッズは、当院のPRを目的に毎年制作しており、今年は学生広報スタッフとしても活躍している芸術地域デザイン学部の学生さんにデザインしてもらいました。

■ノート



■ポーチ



ご応募は
コチラ



Webでの読者アンケートに回答してご応募ください。応募期間は2026年1月末日まで。

当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。たくさんの応募をお待ちしております。



外来エリアに 院内Wi-Fiを設置しました。

新規設置エリア：外来診療棟1階～3階
＊3階ラウンジを含む



学生広報スタッフによるコラム

メンタルを安定させながら寒い冬を 乗り越えるにはどうすれば良いか

初めまして。メディカル広報室学生広報スタッフの竹下です。どうぞよろしくお願ひいたします！

突然ですが、最近の急な冷え込みで、不安な気持ちになることはありませんか？

今回は、精神神経科の國武先生にインタビューを行い、急な冷え込みで感じる不安の原因と対策をまとめました。



不安に感じる原因

先生によると、原因の一つは寒さが交感神経を刺激し、ストレスホルモンが増加することです。また、冷えや頭痛などの体調不良が「異常な状況」として認識され、不安につながる場合もあります。さらに、日照時間の減少による気分を安定させる脳内物質（セロトニン）も影響があるそうです。

精神神経科
國武 裕 講師

乗り越えるための対策

まずは「不安が過剰でないか見つめ直す」ことが大切です。日記や第三者との会話を通じて、自分を客観視することが有効だそうです。また、十分な睡眠の確保も非常に重要です。体調不良が不安につながるため、先生も十分な睡眠の確保を意識しているとのこと。2時間以上の「寝溜め」は日頃の睡眠不足のサインであり、理想の睡眠より短いと不安が増加するというデータもあるそうです。

何かと忙しい時期ですが、まずは生活習慣を安定させ、心身ともに元気に寒い冬を乗り切りましょう！

外来担当医・
開設日付



読者アンケートは
こちら



佐賀大学医学部附属病院

読者アンケートにご協力ください→

